

第3回資源評価結果説明会

【議事要旨】

○日 時：令和5年1月18日（水）10:00～15:30

○場 所：Web 会議

○魚種系群：ヒラメ北海道日本海北部系群、アカガレイ日本海系群、ベニズワイガニ日本海系群

○概 要：

ヒラメ北海道日本海北部系群、アカガレイ日本海系群、ベニズワイガニ日本海系群の資源評価結果について、当該水産資源の関係者を主な対象として、公開で、ウェブ形式の説明会を開催した。

本説明会では、国立研究開発法人水産研究・教育機構から水産資源ごとの資源評価結果の説明が行われ、これに対して参加者から質問・意見等があり、活発な議論が行われた。

主な意見等は以下のとおり。

1. ヒラメ北海道日本海系群

- ① 種苗放流による資源への影響について、科学的な検討を行い、資源評価や資源管理の議論にいかせるように、引き続き検討して欲しい。
- ② 再生産関係にホッケースティック型を採用した理由を今後の会議で丁寧に説明して欲しい。

2. アカガレイ日本海系群

- ① 地域によっては現場感覚と異なる状況が生じており、回遊や分布の傾向に関する調査・研究を進め、資源評価や資源管理にいかせるよう検討して欲しい。
- ② 過去の資源が減少した経緯や親魚、加入群の分布域について情報収集し、資源評価にいかせるよう検討して欲しい。
- ③ 再生産関係にホッケースティック型を採用した理由を今後の会議で丁寧に説明して欲しい。
- ④ 専門用語について、資料の中で用語の説明を加えるなど工夫して欲しい。

3. ベニズワイガニ日本海系群

- ① 大臣許可水域に関して、韓国船の漁獲による資源への影響が大きい可能性が考えられるため、この点についても丁寧に説明して欲しい。
- ② ベニズワイガニの生態は、2系ルールを設定する際に考慮した様々な資源と比較し

ても特異であり、同資源の特性を考慮したABC算定方法等を検討して欲しい。

- ③ データの使用範囲について、資源の開発初期を含めるか・否かなど、資源評価で参照する適正な範囲を検討して欲しい。
- ④ 資源状況がよくなった場合でも、現状の2系ルールでは前年の漁獲量を下回るABCが算定される可能性があるが、リスクを許容した上で資源状況の変化に則したTACを設定することを資源管理の側で検討して欲しい。
- ⑤ 調査結果等で今後の資源状況が改善することが予測される場合において、その状況を反映したABCを算定する手法について検討して欲しい。

以上について、今後の課題として検討されることとなった。

以上

第4回資源評価結果説明会

【議事要旨】

○日時：令和5年1月20日（金）13:00～16:20

○場所：WEB 会議

○魚種：マダイ瀬戸内海東部系群、イカナゴ瀬戸内海東部系群

○概要：

マダイ瀬戸内海東部系群、イカナゴ瀬戸内海東部系群の資源評価結果について、当該水産資源の関係者を主な対象としつつ、公開でウェブ形式の説明会を開催した。

本説明会では、国立研究開発法人水産研究・教育機構から水産資源ごとの資源評価結果の説明が行われ、これに対して参加者から質問・意見等があり、活発な議論が行われた。

主な意見等は以下のとおり。

1. マダイ瀬戸内海東部系群

- ① 瀬戸内海の海洋環境や餌料環境により環境収容力は変化すると思われるため、資源評価や資源管理の議論に生かせるように、科学的な検討を引き続きお願いしたい。
- ② 瀬戸内海中西部系群と瀬戸内海東部系群とで資源状況に違いが生じている要因について説明してほしい。
- ③ 将来的に得られる漁獲量が同数であっても漁獲圧の大きさにより漁獲物の年齢組成が異なることについて、いくつかの事例（ F_{msy} と $F_{current}$ の場合の比較等）を取り上げ、図等を用いて説明してほしい。
- ④ 漁獲金額の最大化を目標とした場合の試算を可能な範囲で今後検討してほしい。
- ⑤ 遊漁が資源に与える影響について、今後検討してほしい。
- ⑥ 漁業者に対する現地での説明会を可能な範囲で実施してほしい。

2. イカナゴ瀬戸内海東部系群

- ① 2系ルールでかつ3通りの漁獲管理規則が提案されていることから、理解しやすいよう丁寧に説明してほしい。
- ② 3通りの漁獲管理規則の違いを理解するため、資源量指標値及び漁獲量に一定の仮定を置いた上で、今後5年間程度の算定漁獲量の試算値の推移を表等で示してほしい。
- ③ 調査船調査のCPUデータが資源評価に活用できるよう引き続き検討してほしい。

以上について、今後の課題として検討されることとなった。以上